

内牧地区

鷲香取神社【内牧】

ご祭神は

経津主神ふつぬしのかみ

天穗日命あめのほひのみこと

由緒・沿革

鎮座年月日は不詳なれど、口碑によると、仁和年間【八八五】の頃よりこの地に香取神社が安置されていたと伝えられている。

香取神社の由来については、下総国香取郡にある香取神宮の神馬が逸走して、この地に来たと言う伝えがある。その頃はこの地方は一帯が深山で人家も稀であった。【この地域は昭和五十二年に、学術調査として発掘した内牧古墳群の付近であり、また、近くには約一万年位前の縄文時代創早期の遺跡や弥生時代の集落遺跡等もあり、古くから人が居住していたことが推定されている。】この山中に馬のいななきがしばしば聞こえてくるので、人々が不思議に思い山中に入り馬を発見した。その時、神馬の行方を尋ねている人がこれを聞き、この地へ来て馬に逢い、その人からこの馬は香取神宮より逸走した神馬であることの話聞き、人々はこの馬を神宮へ返した。このような縁故から、神宮に願い出て御分霊を受けて、内牧村の総鎮守と称して祭祀したと伝えられている。

また、中世前期の鎌倉時代、神社に伝えられている事項に、建久四年【一、一九三】十一月十七日、太田庄鷲宮の御宝前に血流る。凶怪たるの云々、すなわち卜筮するのと

ころ、兵革の兆し云々とあり【吾妻鑑に所載】とある。源頼朝に知らせられたので、十日、源頼朝は神馬鹿毛を鷲宮に奉らる。また、社壇を荘巖すべき旨、仰せ下さる。

榛名四郎重朝御使いたりと云々【吾妻鑑に所載】とある。源頼朝から鷲宮に奉納された神馬が、この神社の前の道【旧鎌倉街道：奥州道】を通過する際、休息された処がこの神社であったと言う。この時代の内牧村は太田庄に属していた。鷲宮は太田庄の総鎮守であり、年々『御神輿』の渡御も行なわれ、殊に当神社において休泊する例があったところから、氏子一同が鷲宮の御分霊を迎えることを願い出て、香取神社と合殿して鷲香取神社と称することになったと伝えられている。

『新編武蔵風土記稿』には、鷲明神・香取合社、村の鎮守なり、慶長十九年勸請と云、南蔵院【修験宗】持ちと記されている。

『武蔵国郡村誌』には、鷲香取神社合殿「村社」、村の東方にあり、天穂日命・経津主命を合祭す、創建不詳、祭日七月十八日と記されている。

『社殿の再建・修築』

慶長十九年甲寅三月十五日、田口筑後守と称する郷土並びに他の諸士氏子等と相謀りて本殿を再建す。

明治十七年六月、本殿を再建。明治四十一年七月拝殿を再建すると記されている。

明治六年「村社」に列格す。昭和二十四年「宗教法人」登録。

神社行事

春祭二月十七日・大祭七月十七日・献穀感謝祭十一月二十三日

伝統行事

不詳

雷電神社【梅田】

ご祭神は

別わけ雷いかづち命のみこと

由緒・沿革

鎮座年月日は不詳なれど、口碑によると、武州百間領梅田村、古隅田川の河畔に鎮座し、別雷命を祭祀す。約六百年余の昔、当村の「村社」女体神社と同時に、東西に鎮祭したものと伝えられている。

『新編武蔵風土記稿』には、雷電社、村の鎮守なり、粕壁宿仙乗院の持ちと記されている。

『武蔵国郡村誌』には、雷電社「平社」村の西方にあり、別雷命を祭る。祭日六月十五日と記されている。

明治六年「無格社」に指定。昭和二十四年五月三十一日「宗教法人」登録。

神社行事

春祭二月二十一日・例祭七月十五日・秋祭十一月二十六日

伝統行事

不詳

神明社【梅田】

ご祭神は

てんしょうこうだいじん
天照皇太神【おおひるめむちのみこと
大日靈貴尊】

由緒・沿革

鎮座年月日は不詳なれど、古来、梅田寺の氏神であったが、明治初期神仏分離令に際し、梅田新田の氏神として奉祭したと、伝えられている。

『新編武蔵風土記稿』には、その記載がない。

『武蔵国郡村誌』には、神明社「平社」村の北方にあり、天照皇太神を祀る。祭日六月十五日と記されている。

明治六年「無格社」に指定。昭和二十四年十月十八日「宗教法人」登録。

神社行事

春祭二月二十一日・例祭七月二日・秋祭十一月二十六日

伝統行事

不詳

女體神社【梅田】

ご祭神は

伊弉冉尊
いざなみのみこと

由緒・沿革

鎮座年月日は不詳なれど、口碑によると、人皇第六十代の醍醐天皇の御代、延喜元辛酉年【九〇一】の創建と伝えられている。元和八年【一、六二三】徳川二代将軍秀忠、初めて日光社参の際沿道付近の由緒ある神社として、金千疋の寄付ありと伝えられている。

『新編武蔵風土記稿』には、女体社、村の鎮守なり、粕壁宿仙乘院持ちと記されている。『武蔵国郡村誌』には、女体社、「村社」村の東方にあり伊弉冉尊を祀る。祭日十一月十五日と記されている。

明治六年四月「村社」に列格。昭和二十四年五月三十一日「宗教法人」登録。

神社行事

春祭二月二十一日・例祭七月十五日・秋祭十一月二十六日

伝統行事

不詳

伝説

この付近にある古隅田川は、梅若伝説にある梅若丸が人買いの信夫の藤太にだまされて、東国へ下ってきた時、病が重くなり足手まといになったので、この地で川に投げ込まれた場所であると、故老の言い伝えが残されている。

記念碑

この梅田地域は、昔から「ごぼう」の産地として知られている場所で、ここより出荷される「ごぼう」は『梅田午莠』と言われて、日本一と称されていた。明治時代宮内省大膳寮に納入され、昭和初期まで納入されていた。また、京都の丸山公園にある『芋莠』

と言う料亭にも直送納入されていたので、この神社の入り口に『梅田午莠宮内省御買上げ記念』と刻まれた石碑が建立されている。

この他に「無登録社」であるが、『新編武蔵風土記稿』の内牧村に『稻荷社』二社【塚内・三堂】村民の持ち、正徳二年の勸請村民の持ち、『浅間社』【上原】明歴二年勸請『諏訪社』・城殿明神社・等が記載されている。

また、梅田村に『山王社』・『大神宮』が記載されている。

『武蔵国郡村誌』の内牧村に「稻荷社」平社村の東方にあり、「宇迦魂命」を祀る。「稻荷社」村の南方にあり、「宇迦魂命」を祀る。「稻荷社」村の東方にあり「宇迦魂命」を祀る。「天神社」村の中央にあり「菅原道真」を祀る。「諏訪社」村の北方にあり「建御名方命」を祀る。「浅間社」村の西方にあり「木花開耶姫命」を祀る。と記されている。

また、梅田村に「日枝社」村の北方にあり「大山咋命」を祀ると記されている。